



にほんご よむよむ文庫

レベル 2 vol.2 9



とるすといみんわしゅう
 トルス Toy 民話集
 おうさまるぱしか／おうさんのものほそいと
 王様とルパシカ／お父さんの物／細い糸

原作=レフ・

簡約 = 山崎 俱子

挿絵 = ミレイ・ア

監修 = NPO法人日本語多読会

にほんご よむよむ文庫 レベル 2

と る す と い み ん わ し ゅ う
トルストイ民話集

おうさま る ぱ し か と う も の ほ そ い と
王様とルパシカ／お父さんの物／細い糸

原作（げんさく）：レフ・トルストイ（れふ・とるすとい）

簡約（かんやく）：山崎 俱子（やまざき ともこ）

挿絵（さしえ）：ミレイ・アニータ（みれい・あにーた）

監修（かんしゅう）：NPO 法人 日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）

<監修者紹介>

NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

当研究会は、学習者のための「読みもの」をつくることを目的に、日本語教師が集まって、2002年1月に発足しました。2006年9月にNPO法人になりました。「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」の授業の実践・研究をしたりしています。 <http://www.nihongo-yomu.jp>

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル2] vol.2

トルストイ民話集

王様とルパシカ／お父さんの物／細い糸

2007年6月1日 初版 第1刷 発行

2011年6月20日 初版 第2刷 発行

原作：レフ・ニコラエヴィチ・トルストイ (Лев Николаевич Толстой)

簡約：山崎 俱子 (日本語多読研究会会員・日本語教師)

作画：ミレイ・アニータ (Mérei Anita)

監修：NPO 法人 日本語多読研究会

ナレーション：篠原 明美／山中 一徳

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：浅妻 健司

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 <http://www.ask-digital.co.jp>

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO法人日本語多読研究会 2007

Printed in Japan ISBN978-4-87217-642-1

にほんご よむよむ文庫 レベル 2

と る す と い み ん わ し ゅ う
トルストイ民話集

おうさま る ぱ し か と う も の ほ そ い と
王様とルパシカ／お父さんの物／細い糸

原作（げんさく）：レフ・トルストイ（れふ・とるすとい）

簡約（かんやく）：山崎 俱子（やまざき ともこ）

挿絵（さしえ）：ミレイ・アニータ（みれい・あにーた）

監修（かんしゅう）：NPO 法人 日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）



王様とルパシカ

ロシアに、一人の王様がいました。王様は、たくさんお金を持っていました。

欲しい物は、何でも買うことができます。食べたい物は、何でも食べることができます。したいことは、何でもすることが出来ます。

ある日、この王様が病氣になりました。

王様は言いました。

「有名な医者を、みんな連れてきなさい」

有名な医者が、いろいろなところから来ました。

一人の医者が言いました。

「王様、この薬を飲んでください。すぐに、よくなりますよ」

王様は、その薬を飲みましたが、病氣はよくなりません。

王様は、いろいろな医者から薬をもらって、全部飲みました。でも、よくありませんでした。

みんなが困っていると、一人のおじいさんが来しました。だれも知らない人でした。

白くて長いひげのおじいさんです。おじいさんは、王様の顔をよく見て言いました。

「王様は、欲しい物は、何でも買うことができますね？」

「そうだ」

「食^たべたい物は、何^{なん}でも食^たべることができますね？」

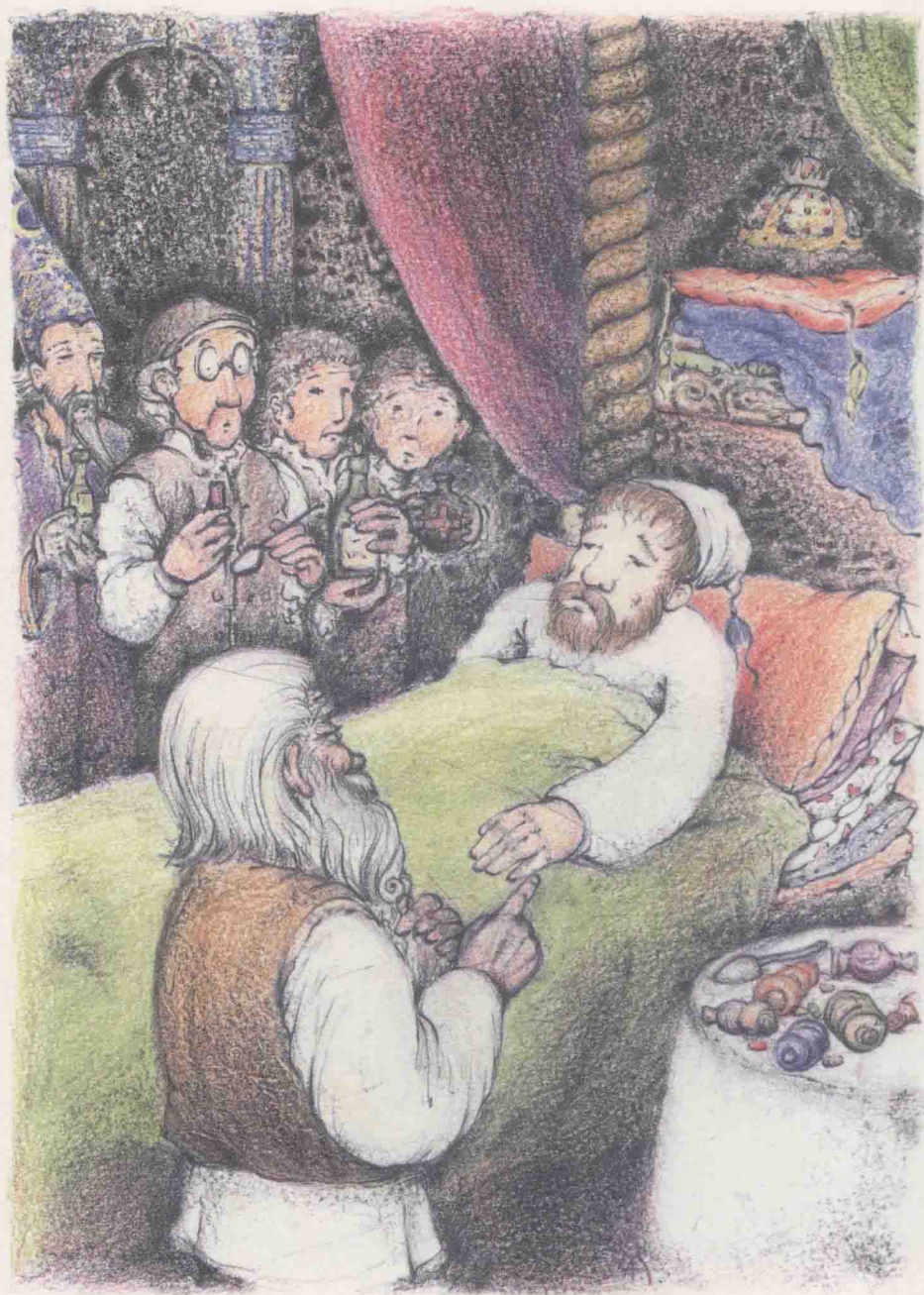
「そうだ」

「したいことは、何^{なん}でもできますね？」

「そうだ」

「それで、王様は楽しいですか？」

王様は、すぐには答^{こた}えませんでした。



王様は、少し後で、静かに言いました。

「いや、楽しくない」

すると、おじいさんは言いました。

「だから、病気になったのです」

王様は、びっくりしました。

「え？ 楽しく暮らしていないと、病気になるのか？」

「そうです。だから、王様、楽しく暮らしている人のルパシカをもらってください。

それで、病気はよくなりますよ」

ルパシカは、ロシアの男の人が着る服です。

王様は、家来に言いました。

「すぐに村や町へ行きなさい。」

そして、楽しく暮らしている人から、

ルパシカを買いなさい。

どんなに高くてもいい。

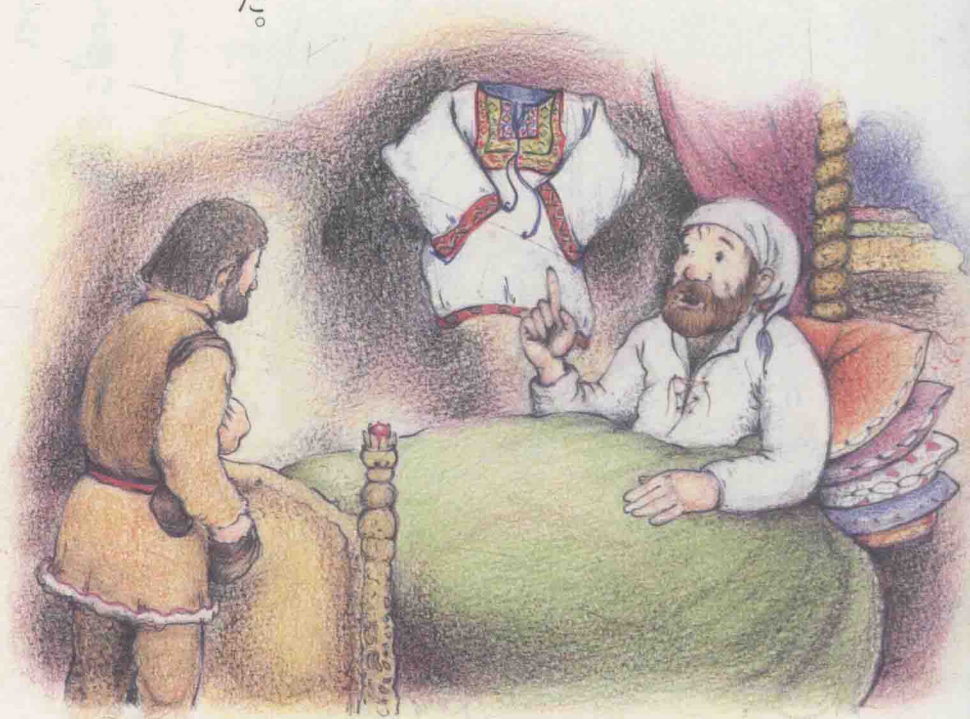
早くルパシカを持つてきなさい」

家来は、いろいろな村や町へ行きました。

そして、たくさんの人に

「あなたは楽しく暮らしていますか？」

と聞きました。



ある人^{ひと}が答^{こた}えました。

「いいえ、楽^{たの}しくありません。体^{からだ}がとても痛^{いた}いんです。もう七十歳^{ななじゅうさい}ですから」

ある人^{ひと}が答^{こた}えました。

「いいえ、楽^{たの}しくありません。

若^{わか}くて元氣^{げんき}ですが、仕事^{しごと}が大変^{たいへん}ですから」

ある人^{ひと}が答^{こた}えました。

「いいえ、楽^{たの}しくありません。

お金^{かね}はたくさんありますが、

子^こどもがいまませんから」



ある人^{ひと}が答^{こた}えました。

「いいえ、楽^{たの}しくありません。

私^{わたし}には、奥^{おく}さんも、かわいい子^こどももいます。

でも、お金^{かね}がありませんから」

楽^{たの}しく暮^くらしている人^{ひと}は、いませんでした。



この王様には、王子（王様の男の子ども）が一人いました。

王子は、

「私が行って、ルパシカを持ってきましょう」

と言いました。

王子は、

いろいろなところへ

行きました。

でも、楽しく暮らしている人は、

いませんでした。

王子は、遠い村まで行きました。

もう夜です。



その村に、

とても小さくて古い家がありました。

中から声が聞こえました。

「ああ、よく働いた。今日もパンと水だけだったが、

おいしかった。ああ、毎日楽しいなあ」

王子は、それを聞いて、すぐに家の戸の前で言いました。

「こんばんは。私はこの国の王子です」

「え？ 王子様？」

戸が開いて、男の人が出てきました。

「どうぞ、お入りください」



王子は、部屋に入りました。

部屋には何もありません。テーブルと椅子だけです。

男の人は言いました。

「王子様、どうしてここに？」

王子は言いました。

「私は、楽しく暮らしている人に会いに来たのです。

あなたは、楽しく暮らしているのですね」

「はい」

「ああ、よかった。あなたに会うことができて、とてもうれしい。

今、王様は病気ですが、楽しく暮らしている人のルパシカを着ると、

病気はよくなるんです。だから、あなたのルパシカを、私に売ってください。

お金をたくさんあげますから」

「ルパシカ？ 私わたしのルパシカですか？」

男おとこの人は笑わらいました。

「私わたしには、ルパシカはありませんよ。

お金かねがなくて、ルパシカるぱしかをか買うことが
できないんですから」



お父さんとうの物もの

ある家いえに、兄あにと弟おとうとがいました。

ある日ひ、二人ふたりのお父さんとうは、とても重おもい病氣びようきになりました。

お父さんとうは、二人ふたりに言いいました。

「私わたしが死しんだ後あと、私わたしの物ものは、全ぜん部ぶ、おまえたち二人ふたりの物ものになる。

半はん分ぶんは兄あにの物もの、半はん分ぶんは弟おとうとの物ものだ」

お父さんとうは、一いっカ月かげつ後ごに死しにました。

お父さんとうは、いろいろろな物ものを持もっていました。

でも、同おなじ物ものはありませんでした。